



病院と患者様 への貢献

グローバル時点有病率調査 (Global-PPS) は、

- 抗菌薬処方の評価を実施するにあたり標準化された方法と簡単なツールを提供するもので、幅広い医療環境で適用可能です。
- 抗菌薬適正使用のための介入における目標値を設定するのに役立ち、複雑なデータ解析に時間と資源を投入する必要はありません。
- 医療関連感染 (HAI) やこれらに関連する抗菌薬処方の負担を評価します。
- HAIの潜在的なリスク因子を特定するのに役立ちます。



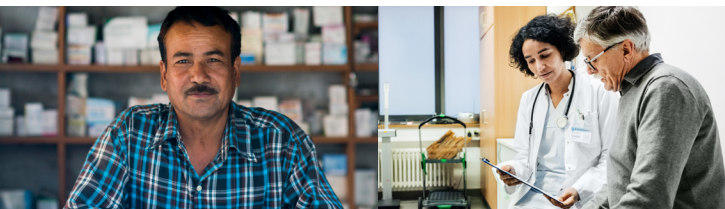
調査スケジュール

調査は毎年3回 (1月~4月、5月~8月、9月~12月) の期間で実施しています。病院は適宜、1つ以上の参加期間を選択できます。



最後に覚えておくべき重要な点は…

データは完全に匿名でオンライン入力されます。**データの所有権は病院が保持します。**データプライバシーの抜粋はリクエストに応じて提供しています。病院の参加や病院レベルでの実地調査は、いずれも任意で行われるものです。



バイオメリーは、民間スポンサーとしてGlobal-PPSを単独でサポートしています。Global-PPSには、フランドル政府によるHerman GoossensへのMethusalem個人助成金からも資金が拠出されています。バイオメリーを含む資金提供者は、試験のデザイン、データ収集、データ解析およびデータ解釈にいくらかの役割も果たしていません。データは極秘扱いとし、匿名化された状態で、アントワープ大学のコーディネートセンターにて保管されます。



抗菌薬の使用状況と耐性に関する国際調査 (GLOBAL-PPS)

調査責任者

Prof. Herman Goossens

コーディネートおよびテクニカルサポート
Ann Versporten, Ines Pauwels, Nico Drapier,
Robin Bruyndonckx, Peter Zarb, Herman Goossens



Laboratory of Medical Microbiology
Vaccine & Infectious Disease Institute
University of Antwerp

Global-PPS@uantwerpen.be
www.global-pps.com

Global - PPS Japan 研究会 (2019年12月設立)

代表世話人	國島 広之 先生	学校法人聖マリアンナ医科大学 感染症学 教授
世話人	具 芳明 先生	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター AMR 臨床リファレンスセンター 情報・教育支援室長
世話人	関谷 紀貴 先生	がん・感染症センター 東京都立駒込病院 感染制御科 医長 / 臨床検査科 医長 / 院内感染対策室長
世話人	土井 洋平 先生	藤田医科大学 医学部 微生物学講座・感染症科 教授
世話人	笠原 敬 先生	奈良県立医科大学 感染症センター 准教授
世話人	椎木 創一 先生	沖縄県立中部病院 感染症内科 副部長
顧問	賀来 満夫 先生	学校法人東北医科薬科大学 医学部 感染症学 特任教授

Global-PPSはアントワープ大学が調整を行い、
バイオメリーが後援しています。



Universiteit
Antwerpen



グローバルな知見を
共有することで
地域ごとのアクションを
サポート



GLOBAL
PPSへの
参加

抗菌薬の使用状況と耐性に関する
国際調査 (GLOBAL-PPS)

www.global-pps.com

プロジェクト

標準化された「抗菌薬の使用状況と耐性に関する国際調査」(Global-PPS)は、**成人、小児、新生児の入院患者に対する抗菌薬の処方と耐性の評価・比較・モニタリングを目的とした、無償の簡易なウェブベースツール**です。

さらに、侵襲的なデバイスの使用に重点を置いた医療関連感染症(HAI)の調査も可能です。

GLOBAL-PPSの主な目的

- **改善点の特定**：パフォーマンス指標を提供し、抗菌薬処方およびHAIの質の改善に対する目標を特定すること。
- **変化の実践**：抗菌薬の慎重な使用とHAIの予防促進を目的とする病院の介入計画を支援すること。
- **影響の測定**：PPSを繰り返し実施することを通じて、これらの介入の有効性を評価すること。

このツールは、医療資源や地理的環境が異なる**地域および国での抗菌薬適正使用をめざす介入と支援**に貢献しています。各国の政府は、薬剤耐性と闘うための**行動計画の一環**としてGlobal-PPSツールを活用することにより、限られた費用と病院スタッフで、抗菌薬の処方を改善することが可能となります。

2015年以降、この大規模プロジェクトは、世界的なネットワークを構築してきました。Global-PPSは毎年実施されており、現在では3つの実施期間への参加が可能となりました。

実施方法

- 成人、小児、新生児の入院患者を受け入れているすべての医療施設が参加可能です。
- 参加施設は、あらかじめ定められた4か月以内に、「**1日の」横断的PPS**を実施することが求められます。
- 医療施設内のすべての病棟に対し、この期間内に1回、調査を実施しなければなりません。過去、Global-PPSに参加したことのある病床数の多い医療施設に関しては、特定のタイプの病棟集合（例えばすべてのICU、すべての外科病棟またはすべての小児病棟など）のみを組み入れた施設の部分標本を対象として参加することも可能です。
- 調査当日の午前8時に、少なくとも1種類以上の抗菌薬を投与されている入院患者の詳しい情報を収集してください。
- データは紙の形態で収集し、その後、データ入力・検証・報告のために開発された**ウェブベースのGlobal-PPSアプリケーションのデータベース**に入力します。

調査におけるサポート

すべての参加施設には次のような支援を提供しています。

- **効率的で、利用者にフレンドリーなヘルプデスク**
- あらゆる作業文書や、共有された連絡事項と出版物、発表などが掲載される**専用のウェブサイト**
- **各施設での経験を共有できる医療施設のネットワーク**

世界で80カ国以上
800を超える医療施設が
少なくとも年1回以上
Global-PPSに
参加しています。

データベースには30万例を超える患者様の情報が
入力されており、類似した
環境(病院のタイプや診療
科)、同じ国、地域および
期間における医療施設の
一定基準による比較が可
能です。

提供されるフィードバックとは？

Global-PPSの強みは、データの入力と検証後、医療施設は**ワンポイントまたは長期間のフィードバックレポートをリアルタイムでダウンロード**できるという点です。これらは地域とのコミュニケーションや発表などに活用することが可能です。医療施設に固有の抗菌薬使用率が全国平均あるいは大陸平均の全体的な結果と比較して作図されています。

さらに、病院は随時、それぞれのオリジナルデータをExcelファイルで抽出し、独自の目的で分析することも可能です。さらに、私たちは病院とネットワークの連携を支援し、奨励しています。

「皆さんのアドバイスに従って調査チームを立ち上げました。好ましい相互作用を生み出し、良好な協力関係をさらに発展させることができる素晴らしい機会になりました。多くの病棟で共同調査を実施したことは非常に有効でした。当初考えていたよりも簡単で、スタッフはとても協力的でした。ポスターの配布などを行わなかったにも関わらず、スムーズに実施できたことに本当に驚いています。患者様も我々の活動を前向きに受け入れてくれました。今後も継続的にコラボレーションしていければと思っています。どんな形であれ、また活動できることを楽しみにしています！」

セルビアから届いた感謝の声

